

強化することは当然ですが、従業員1人1人が高いセキュリティ意識を持ち、日々行われる攻撃に対しての防御策を確実に実行していくことが重要となります。

たとえば、毎月公開されるWindows Updateを確実に実行することや、不審なファイルを実行しないなどがこれにあたります。

しかしながら、e-Learning等で常日頃からセキュリティ教育を実施し全従業員に高いセキュリティ意識を持ってもらうようにしていても、セキュリティの問題が長い間発生しないと「今回は大丈夫だろう」と考える人が出てきてしまい、セキュリティ意識の低下が起きてしまいます。

このようなことを防ぐには、実際に危険なことを体験し、セキュリティの脆弱性や不審なファイルの危険性を再認識してもらうことが一番効果的です。

具体的には、「Exploit」と呼ばれるインターネットに公開された脆弱性を攻撃するコードを使用することで、簡単に脆弱性を持ったPCを攻撃できることを体験したり、RATと呼ばれる一見通常のプログラムに見えるが実際には攻撃者から遠隔操作されてしまうプログラムが簡単に作成でき、それを使用することで実際に遠隔操作することを体験することです。

しかしながら、企業ネットワークでそのようなことを体験するのはなかなか難しいことだと思います。

そこで弊社では、実際にExploitを使用し脆弱性を攻撃したり、RATを使用し不正に遠隔操作する体験型のセキュリティ研修を提供しています。

実際に危険な体験をすることでよりセキュリティの重要性を肌で感じ、自己の体験として危険性を理解することで日々のセキュリティの意識を向上させることができます。

本研修では、そのような危険性に対しどのような対策を施せば良いかも紹介します。

皆様のご受講を心よりお待ちしております。

コース詳細はこちら：

N472：実践！コンピュータセキュリティ ～ハンズオンで学ぶハッキング手法とその対策～
<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=814&m=12929&v=7c73c689>

コ | ラ | ム |

◆◇ 『スーパーエンジニアの独り言 第14回 “夜と霧”』 ◇◆

「404 Not Found」という表示をどこかで見た経験があることでしょうか。

このブラウザで表示されるメッセージは、HTTPのステータスです。クライアントであるウェブブラウザから送信されるHTTPリクエストに対してサーバであるウェブサーバからのHTTPレスポンスに埋め込まれる情報です。ステータスは、三桁の数字（コード）で表現されます。ステータスコードは該当する要求に対する態度とも言えましょう。

以下にRFCで規定されているステータスコード（一部）を列記します。

```
Informational 1xx
100 Continue
101 Switching Protocol

2xx Successful 2xx
200 OK
201 Created
202 Accepted
203 Non-Authoritative Information
204 No Content
205 Reset Content
206 Partial Content
```

Redirection 3xx
 300 Multiple Choices
 301 Moved Permanently
 302 Found
 303 See Other
 304 Not Modified
 305 Use Proxy
 306 (Unused)
 307 Temporary Redirect

Client Error 4xx
 400 Bad Request
 401 Unauthorized
 402 Payment Required
 403 Forbidden
 404 Not Found
 405 Method Not Allowed
 406 Not Acceptable
 407 Proxy Authentication Required
 408 Request Timeout
 409 Conflict
 410 Gone
 411 Length Required
 412 Precondition Failed
 413 Request Entity Too Large
 414 Request-URI Too Long
 415 Unsupported Media Type
 416 Requested Range Not Satisfiable
 417 Expectation Failed

Server Error 5xx
 500 Internal Server Error
 501 Not Implemented
 502 Bad Gateway
 503 Service Unavailable
 504 Gateway Timeout
 505 HTTP Version Not Supported

コードの最初の数字がカテゴリを示します。
 例えば、200番台はリクエストが受理された事を示し、400番台はクライアントに
 起因するエラー、500番台はサーバが処理に失敗、をそれぞれ意味します。

ステータスコードはウェブサーバのみならず、ウェブアプリケーションを作成
 する際に必要となる場合があります。これは送信されるリクエストに対して、
 どの様に応答するかをウェブアプリケーションで決める場合もあるからです。

例えば、100(Continue)は通信量を減らすため工夫です。クライアントからの
 要求にサーバが「継続」を認めるステータスコードです。クライアントは、
 100番を受け取った後、データ本文であるボディ部分を送信します。
 反対にサーバが要求を受け付けられない場合には、400番台のステータスコード
 を返します。例えば、417(Expectation Failed) つまり「継続不可」です。
 これにより無駄な通信を減らすという仕組みです。

詳細はHypertext Transfer Protocol -- HTTP/1.1 (RFC 2616)をご参照ください。
 またHyper Text Coffee Pot Control Protocol (HTCPCP/1.0) (RFC 2324) も
 ご興味があれば、併せてどうぞ御覧ください。

ウェブサーバは特定状況における態度をルールで決められていますが、
 人間は「その状況に対する態度を決める自由」を持っているのだと
 ヴィクトール・エミール・フランクル(Viktor Emil Frankl)は述べています。
 彼の著書である「夜と霧」(原題「それでも人生に然りと言う」所収の
 「一人の心理学者が強制収容所を体験する」)で力強く語っています。

どのような状況でも、それに対峙する態度を決めるのは自分である。
 意思の自由は何人たりとも奪うことの出来ない、個としての存在意義なのだ
 と説いています。様々な問題を抱える我々一人ひとりにフランクルからの
 心強いエールであると理解し日々を邁進したいと心の底から思う次第です。

では、次回もお楽しみに。

■お問合せ・ご意見・ご感想は◆CTC教育サービス◆窓口まで
シーティーシー・テクノロジー株式会社 エデュケーションサービス部
E-Mail : kyouiku@ctc-g.co.jp / TEL : 03-5712-8701

●外部委託について

弊社はメールニュース配信業務をシーティーシー・ビジネスサービス株式会社（CTC100%出資子会社）に委託しております。

●本メールマガジン編集・配信責任者

CTCT エデュケーションサービス部 部長 篠原 義一
所在地：東京都世田谷区駒沢1-16-7 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jp

●個人情報保護方針

CTCグループの個人情報保護方針につきましては下記URLをご参照ください。

http://www.ctc-g.co.jp/guide/security_policy.html?top=b_security

●配信中止及びお問合せ対応について

- ・「CTC教育サービス News&Topics」の配信が不要な場合には、下記URLから配信停止のお手続きを行ってください。

<https://krs.bz/ctc-g/m/ctc-education>

- ・当社では、複数種類のメールマガジンやメールニュースを発行しております。大変お手数ではございますが、CTC教育サービス以外からのメール配信についての受信拒否および個人情報に関するご要求は、各メールに記載の個々の連絡先宛にそれぞれご連絡をお願いします。
 - ・受信者ご本人様からの個人情報の開示・訂正・削除に関するご要求は、随時 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jpにてお受けいたします。
-